

経営比較分析表

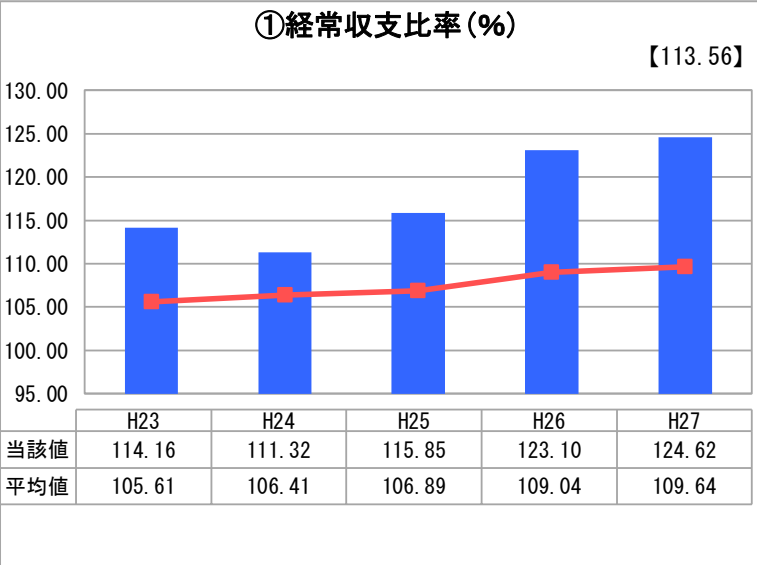
長野県 中野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A5
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	61.84	97.37	3,240

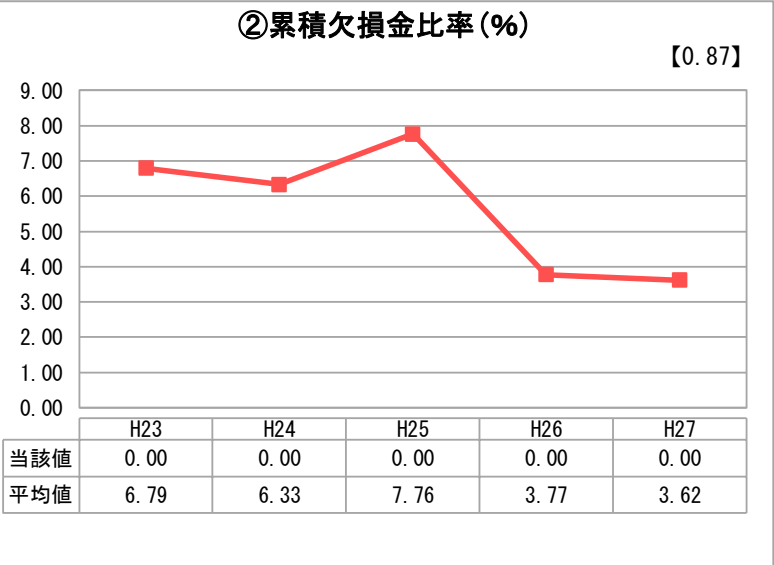
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
45,783	112.18	408.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
44,416	44.45	999.24

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成27年度全国平均

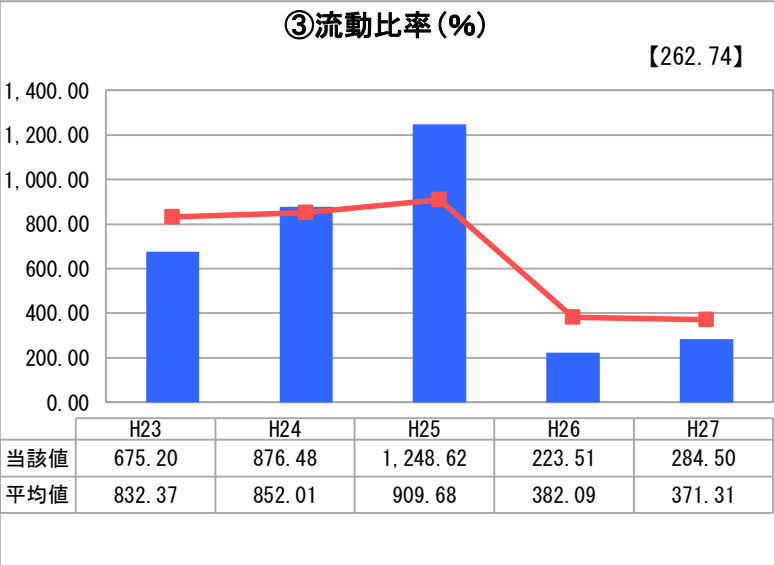
1. 経営の健全性・効率性



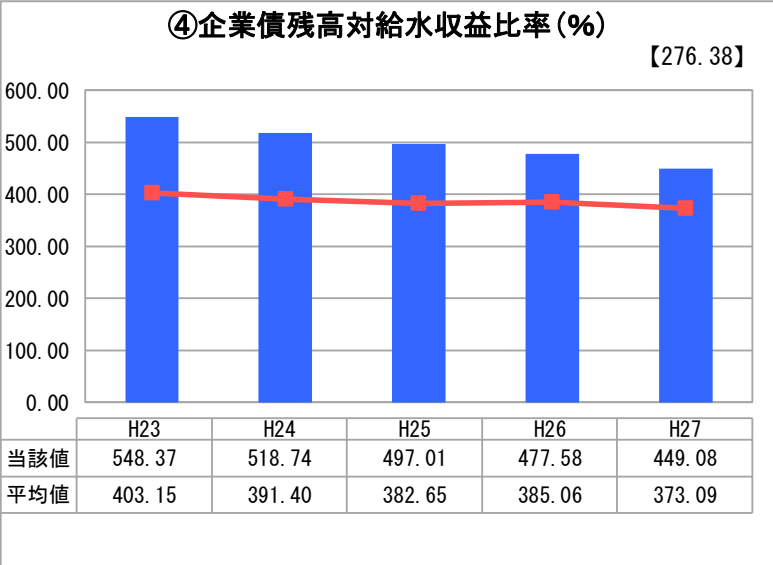
「経常損益」



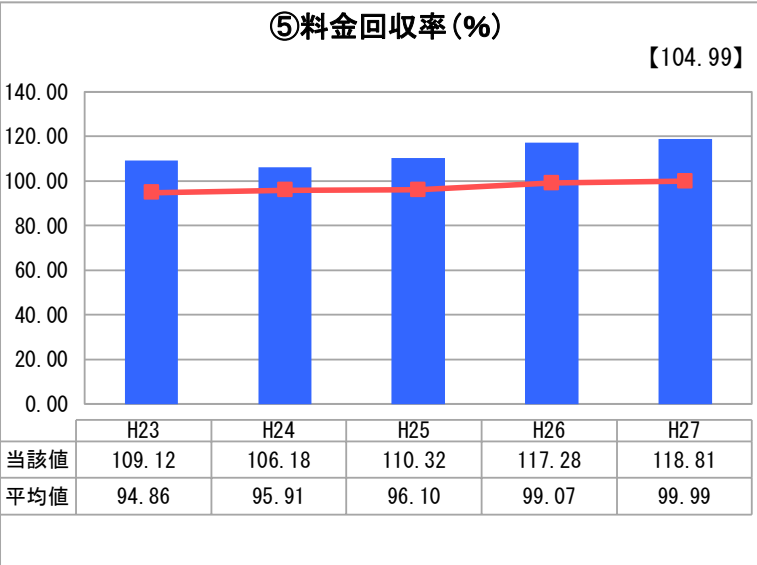
「累積欠損」



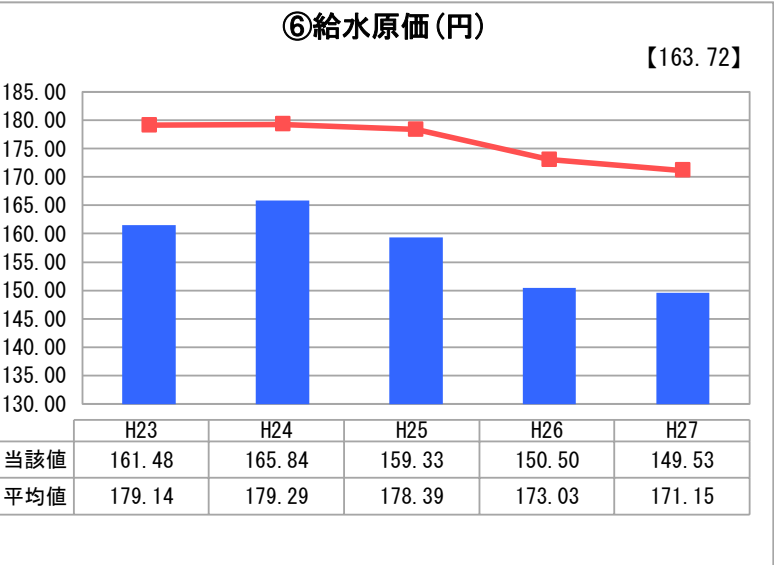
「支払能力」



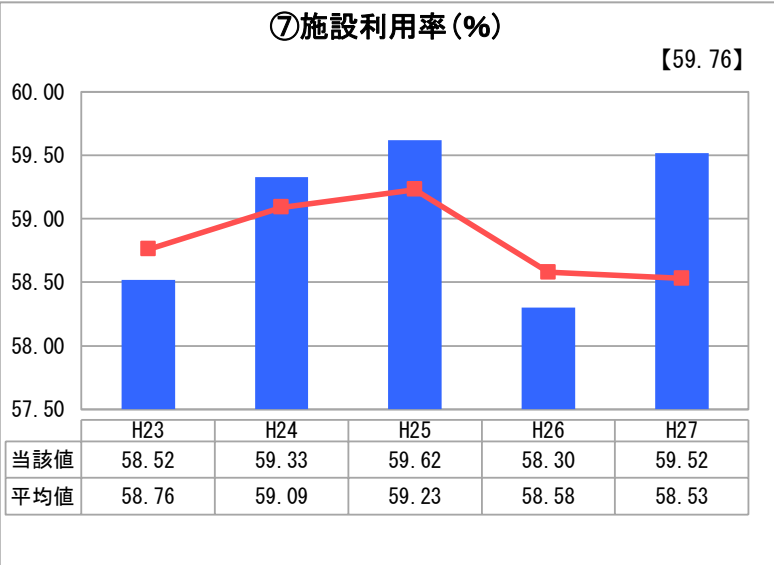
「債務残高」



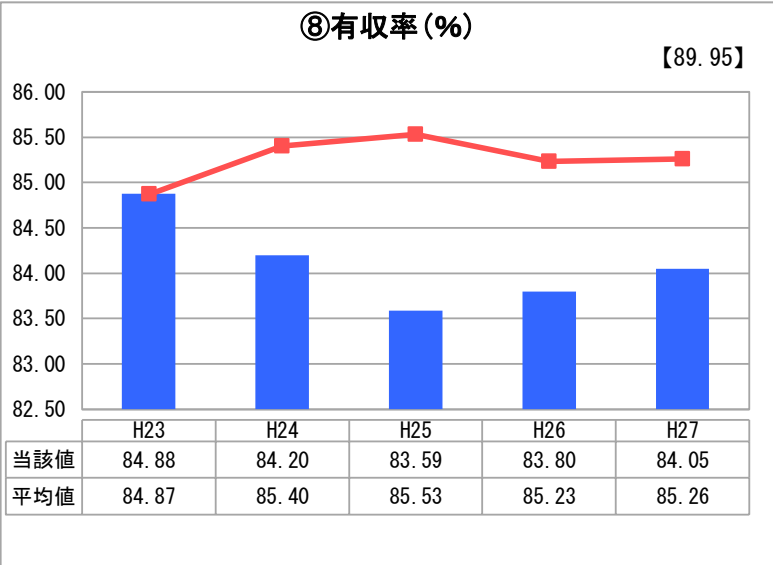
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

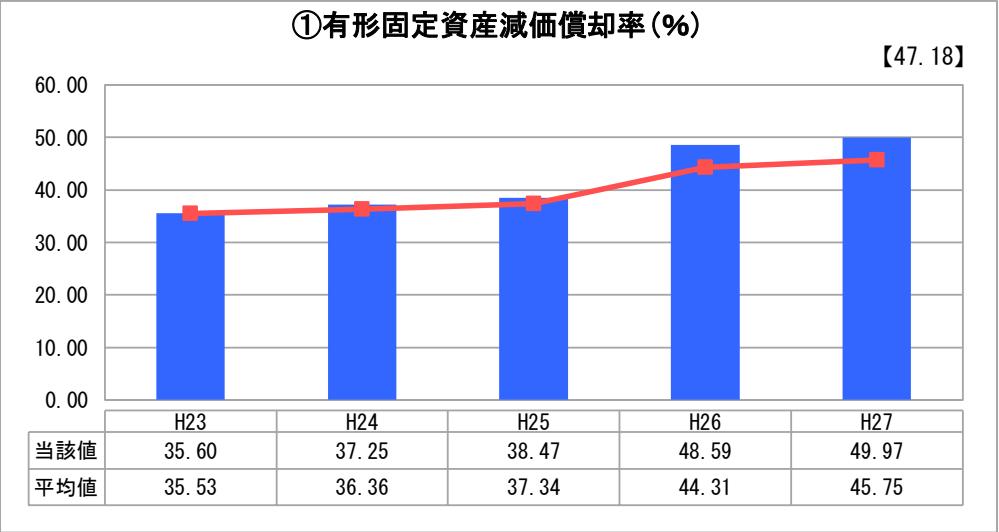


「施設の効率性」

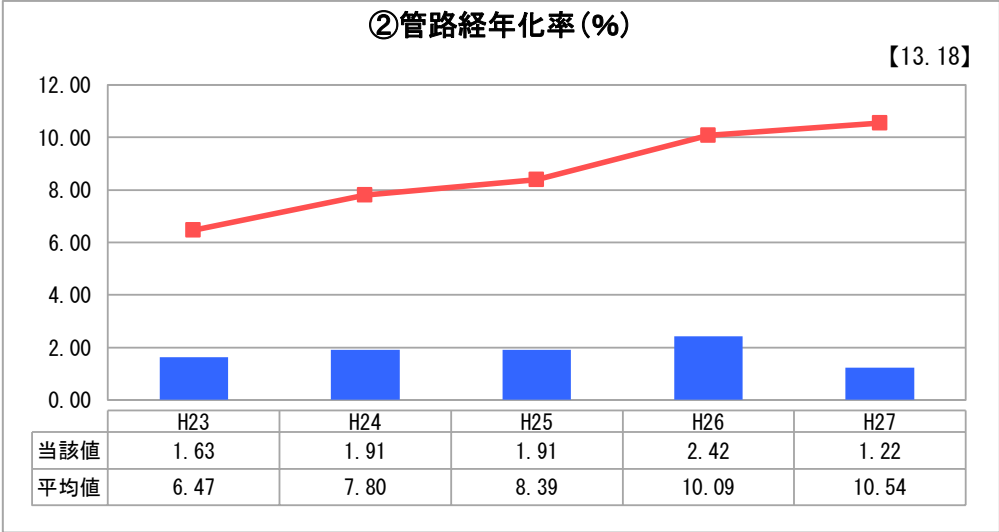


「供給した配水量の効率性」

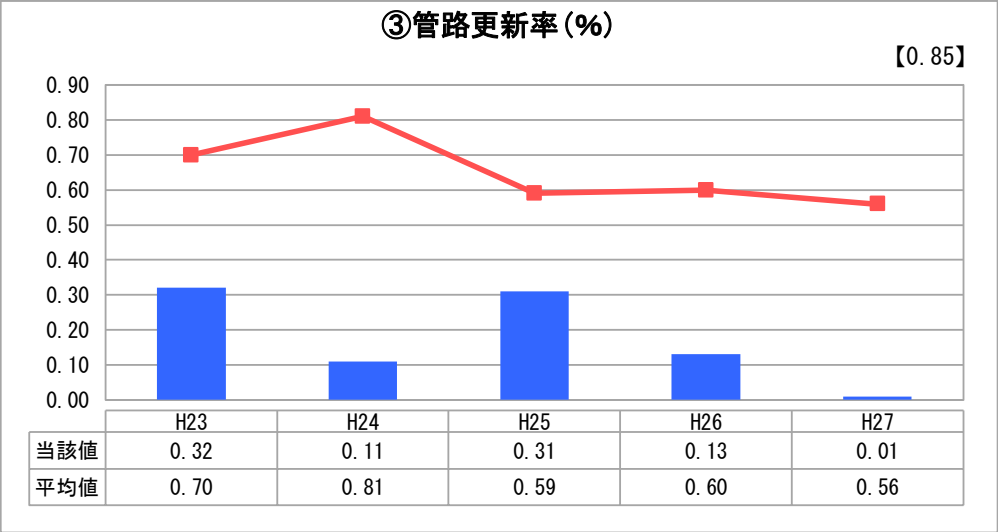
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率が100%以上で料金回収率(給水収益で賄われているかどうか)も100%以上であることから、おおむね適正な料金で経営していると考えます。
しかし、企業債残高対給水収益比率が類似団体及び全国平均より高めであるため、注意が必要です。

2. 老朽化の状況について

管路経年率は、類似団体及び全国平均を下回っているが、有形固定資産比率は上昇基調にあるため、法定耐用年数に近づいている現状です。

全体総括

有形固定資産減価償却率が高く、且つ経常収支比率が良好な場合には、必要な更新投資を先送りしている可能性があるとの見解があるが、当市においては水源開発問題があるため、方針によって投資のあり方が変わるため抜本的な対策が行えない状況です。